

公益財団法人日本ソフトテニス連盟

日本代表チーム・ナショナルチーム・全日本アンダーチーム編成基準について

【日本代表チーム編成基準】

1. 目 的

国際大会での優勝を目指し、日本を代表するトップ選手によりチームを編成する。

2. 選考基準（男女とも）

（1）強化スタッフ

強化委員会の推薦に基づき、理事会で決定する。

（2）選 手

選手の選考方法および人数は別表に定めるとおりとする。なお、選考対象大会による実績に該当する選手が重複した場合は、下位の実績による補充は行わない。

3. 選考時期

国際大会開催年度の全日本ミックスダブルス選手権大会終了後の6月下旬を目安とする。アジア競技大会開催年度は全日本シングルス選手権大会終了後の5月下旬を目安とする。ただし、国際大会の開催時期など諸般の事情を考慮し、異なる時期に選考を行うことを本連盟の理事会にて決定した場合は、これらの限りではない。

4. 期 間

国際大会の開催時期など諸般の事情を考慮し、理事会によって決定された活動開始日から活動終了日までとする。

【ナショナルチーム編成基準】

1. 目 的

国際大会での優勝を目指し、日本を代表するトップ選手によりチームを編成し強化をはかる。

2. 選考基準（男女とも）

（1）強化スタッフ

強化委員会の推薦に基づき、理事会で決定する。

監督1名、コーチ2名、トレーナー1名

（2）選手

選手の選考方法および人数は別表に定めるとおりとする。なお、選考対象

大会による実績に該当する選手が重複した場合は、下位の実績による補充は行わない。

3. 選考時期（男女とも）

天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権大会終了後の11月中旬を目安とする。ただし、国際大会の開催時期など諸般の事情を考慮し、異なる時期に選考を行うことを本連盟の理事会にて決定した場合は、この限りではない。

4. 期 間

原則、毎年12月1日から翌年11月30日までとする。

【全日本アンダーチーム編成基準】

1. 目 的

国際レベルの競技能力の開発を目指して、競技者の発掘・育成・強化の全体を通じた共通の理念と指導カリキュラムに基づいてそれぞれの時期に最適な指導を一貫して行うこと。また、ソフトテニス競技をより魅力のあるスポーツに育て競技を通じて青少年の育成に寄与していくことを目的とする。

2. チーム編成

次の6カテゴリーをもって編成する。

- (1) 全日本アンダー14男子
- (2) 全日本アンダー14女子
- (3) 全日本アンダー17男子
- (4) 全日本アンダー17女子
- (5) 全日本アンダー21男子
- (6) 全日本アンダー21女子

3. 選考基準（男女共）

(1) 強化スタッフ

強化委員会の推薦に基づき、理事会で決定する。

各カテゴリー共監督1名、コーチ1名、トレーナー1名

(2) 選手

①大会成績（下記大会の個人ダブルス及びシングルス優勝者）

全日本小学生選手権大会・全日本ジュニア選手権大会・全国中学校大会・全国高校総体

②強化委員会の推薦に基づき、理事会で決定する選手

③メンバー枠は原則として各カテゴリー共20名以内とする

④全日本アンダーチーム各カテゴリー（男女）選手の選考方法は別表に定めるとおりとする。なお、選考対象大会による実績に該当する選手が重複した場合は、下位の実績による補充は行わない。

4. 選考時期

(1) 全日本アンダー１４男女およびアンダー１７男女

競技者育成プログラムＳｔｅｐ－４終了後の１１月下旬を目安とする。

ただし、国際大会の開催時期など諸般の事情を考慮し、異なる時期に選考を行うことを本連盟の理事会にて決定した場合は、この限りではない。

(2) 全日本アンダー２１男女

天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権大会終了後の１１月中旬を目安とする。

ただし、国際大会の開催時期など諸般の事情を考慮し、異なる時期に選考を行うことを本連盟の理事会にて決定した場合は、この限りではない。

5. 期 間

原則、毎年１２月１日から翌年１１月３０日までとする。

附則

1. この基準は、平成１４年１２月１日から施行する。
2. この基準は、本連盟が公益財団法人としての設立の登記の日（平成２４年４月１日）から施行する。
3. この基準は、平成２７年１２月 ５日から施行する。
4. この基準は、平成２９年１１月 ３日から施行する。
5. この基準は、令和 元年１１月 ３日から施行する。
6. この基準は、令和７年２月１５日から施行し、令和 ６年１２月１日から適用する。
7. この基準は、令和７年７月２４日から施行し、令和 ６年１２月１日から適用する。

日本代表チーム及びナショナルチーム選手選考基準（2025, 11, 11改正）

		ナショナルチーム	日本代表チーム	
1 選考人数		16名程度	5名または、6名(大会要項による)	
2 選考時期		全日本選手権終了後の11月中旬	国際大会当該年の全日本ミックスダブルス選手権終了後の6月下旬。ただし、アジア競技大会開催年度はエントリー期限(大会要項による)が早期のため5月下旬。	
2 選考 方法	(1) 大会実績、ランキング等による選考		原則として日本連盟ランキング上位3ペア6名及び全日本シングルス選手権優勝者1名の合計7名とするが、ランキング上位3ペアに全日本シングルス優勝者が含まれる場合は6名とする。 我が国で行われる国際大会予選(ダブルス)において優勝したペア2名を選考する。更に6名選考の場合は、国際大会当該年の全日本シングルス選手権で優勝した1名及び全日本ミックスダブルス選手権で優勝した男女各1名ずつを加え、4名を選考とするが、予選優勝者と重複した場合は2名または3名とする。 ただし、アジア競技大会ではダブルスの種別がないため、日本代表予選会はシングルスで実施し、優勝者1名を日本代表選手とする。 また、アジア競技大会はエントリー期限(大会要項による)が早期のため、他の4名はナショナルチームのメンバーによる選考合宿を実施し、強化スタッフが選考、強化委員会を経て、理事会で承認とする。	
	(2) 観点評価 による選 考	① 評価者	選考時の当該監督及びコーチ	選考時の当該監督及びコーチ
		② 評価の対象	国際大会予選会、全日本シングルス選手権、全日本選手権のいずれかにおいて、原則上位ベスト16以内に入賞した選手のうち、日本代表を目指す強い意志を持ち、競技力の向上に励む者。	前年12月からナショナルチームに所属する選手。
		③ 評価の項目及び配点	大会状況【50点】	大会状況【20点】
				合宿状況【60点】
			大会実績【30点】	大会実績【30点】
	④ 評価の基準	「技術、体力、精神力、戦法・戦略、コート環境への適応力、試合結果、練習への取り組み」については、「非常に優れている、優れている、普通、やや劣っている、劣っている」の基準に従い評価者が評価する。	「パフォーマンス評価、戦法、戦略、合宿中の練習状況、合宿中の試合内容」については、「非常に優れている、優れている、普通、やや劣っている、劣っている」の基準に従い評価者が評価する。	
⑤ 判定	評価結果の点数を集計し、原則として総合点の上位16名程度をナショナルチーム選手として選考する。	評価結果の点数を集計し、原則として総合点の上位2～4名を日本代表として推薦する。		
			(*)日本代表チームとはアジア競技大会・世界選手権・アジア選手権・アジアカップの4大会の日本代表選手によって構成されるチームを指す。	

全日本U-21チーム選手選考基準

全日本U-21チーム		
1 選考人数	16名程度	
2 選考時期	全日本選手権終了後の11月中旬	
2 選考方法	(1) 大会実績、ランキング等による選考	原則として、全国高校総体優勝者、全日本ジュニア選手権大会U-20(ダブルス・シングルス)優勝者の5名とする。ただし、優勝者が重複した場合や対象選手がナショナルチームへの推薦を受けた場合はその限りではない。
	(2) 観点評価による選考	
	① 評価者	選考時の当該監督及びコーチ
	② 評価の対象	国際大会予選会、全日本シングルス選手権、全日本ミックスダブルス選手権、全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本学生選手権(ダブルス・シングルス)、全国高校総体のいずれかにおいて、原則上位ベスト16以内、及び東西選手権大会において、原則上位ベスト8以内、並びに全日本ジュニア選手権大会、国民スポーツ大会のいずれかにおいて、原則上位ベスト4以内に入賞した選手のうち、ナショナルチームを目指す強い意志を持ち、競技力の向上に励む者。
	③ 評価の項目及び配点	大会状況【110点】
		大会実績【90点】
	④ 評価の基準	「技術、体力、精神力、戦法・戦略、コート環境への適応力、意欲、向上心」については、「非常に優れている、優れている、普通、やや劣っている、劣っている」の基準に従い評価者が評価する。
	⑤ 判定	評価結果の点数を集計し、原則として総合点の上位16名程度をU-21チーム選手として選考する。

全日本U-14・U-17チーム選手選考基準

			全日本U-14・U-17チーム
1 選考人数			各カテゴリー20名以内
2 選考時期			競技者育成プログラムStep-4終了後の11月下旬
2 選考 方法	(1) 大会実績、ランキング等による選考		原則として全日本小学生選手権大会・全国中学校大会・全国高校総体・全日本ジュニア選手権大会・ジュニアジャパンカップの個人ダブルス及びシングルス優勝者とする。ただし、優勝者が重複した場合や対象選手がナショナルチームへの推薦を受けた場合はその限りではない。
	(2) 観点評価 による選考	① 評価者	選考時の当該監督及びコーチ
		② 評価の対象	全国各8ブロックの競技者育成プログラムStep-3から選考された選手と日本連盟の推薦選手(注1)の中から、競技者育成プログラムStep-4の選考会において評価された選手のうち、日本代表を目指す強い意志を持ち、競技力の向上に励む者 (注1) 全日本大会での1位及び2位入賞者(全日本小学生選手権大会、全国中学校大会、全国高校総体、全日本ジュニア選手権大会)
		③ 評価の項目及び配点	選考会【50点】
		④ 評価の基準	オーディション型選考にて、技術・身体・戦法・戦略、対応力、創意工夫、フィットネステスト(持久力・筋力・柔軟性・瞬発力・敏捷性・調整力)、心理的要素等について、「非常に優れている、優れている、普通、やや劣っている、劣っている」の基準に従い評価者が評価する
		⑤ 判定	評価結果の点数を集計し、原則として総合点の上位16名程度を全日本アンダー(U-14・U-17)チーム選手として推薦する